

第30回 グローバル感染症研究セミナー

2024年9月3日
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/xBLeCxFTEAiHgbYhg>



演者：木村 岳史 先生

信州大学医学部内科学第二教室 講師

ハイブリッド開催

(Zoom、グローバル感染症研究センター棟 1F多目的室)

トロンボスポンジン2：慢性肝疾患における肝線維化と 予後予測の新規バイオマーカー

慢性肝疾患における非侵襲的な肝線維化および予後予測バイオマーカーの開発は、重要な課題である。我々は、MASLDおよびHCV感染患者の肝組織から得られた遺伝子発現データを基に、特に分泌蛋白に焦点を当てた解析を実施し、新たな血清バイオマーカーの可能性を探求している。

今回、トロンボスポンジン2 (TSP2, THBS2遺伝子) が高度肝線維化を伴う肝臓で最も顕著に上昇する分泌蛋白の一つであり、肝星細胞で高発現することを確認した。また、TSP2の発現はTGF- β 経路およびコラーゲン関連遺伝子の活性化と強く関連し、TSP2高値例ではMASLD、HCV感染患者、HBV感染患者において肝関連イベント（肝不全、静脈瘤、肝癌）のリスクが増加することが示された。これにより、血清TSP2は肝線維化の非侵襲的予測マーカーとして有望であり、さらに抗線維化療法の潜在的ターゲットとなる可能性が示唆された。

本セミナーでは、TSP2に代表される慢性肝疾患における潜在的バイオマーカーについての知見を共有する。

世話人 内田 宅郎 (グローバル感染症研究センター 講師)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係 (5444)

TEL 097 (586) 5444 E-mail glocal@oita-u.ac.jp